

かものうりんだより

発行：静岡県賀茂農林事務所

所在地：〒415-0016 静岡県下田市中531-1 電話番号:0558-24-2075

ホームページ：<http://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/sa-710/index.html>

2012.3月号



森づくり県民大作戦

1月21日(土)、森づくりイベント「いなずさの里山づくり」を開催し、下田市や河津町から41名が参加しました。

当日は、寒く小雨まじりの一日でしたが、「芽かき作業」、落ち葉かきによる「堆肥づくり」や大島桜の早生種を選抜したお吉桜などの植栽を通じて、参加者に里山を整備する楽しさを伝えることができました。



～芽かき作業～

また、参加者からは「桜が咲き、いなずさの山を彩るのが楽しみ」との声も聞かれました。

賀茂農林事務所では5月にも松崎町で森づくりイベント（シイタケ、ナメコの菌打ち体験）を開催する予定です。このイベントにも多くの方々に参加いただきたいと思います。



青年農業給付金について

国は、平成24年度事業として新たに農業に参入する農業者を対象とした青年就農給付金制度を創設しました。この制度には経営開始型と準備型があり、経営開始型は、経営が不安定な就農直後（5年以内）の所得を確保するために、準備型は、就農前の研修期間（2年以内）の所得を確保するために、年間150万円が給付されます。

なお、経営開始型を受給するためには、市町が作成する地域集落の農業の「未来の設計図」といえる「人・農地プラン」に位置づけられることが必要です。問い合わせ先は市町農政担当課又は賀茂農林事務所企画経営課（Tel:0558-24-2076）です。

目次

・森づくり県民大作戦	… 1	・東伊豆町大川地区の治山事業	… 3
・青年農業給付金について	… 1	・工事現場は雲の中	… 3
・賀茂地域での「わな猟免許試験」に過去最大の127人が挑む	… 2	・「地籍調査研修会」を開催	… 3
・ニューマガザ「ふる一つビネガー」発売	… 2	・「花咲くしずおか賀茂地域推進大会」を開催	… 4
・県産木材を使った「南伊豆町立認定こども園」完成	… 2	・「南伊豆山葵生産組合総会」の開催	… 4
		・石部の棚田で農作業伝承イベントを開催	… 4



賀茂地域での「わな猟免許試験」に過去最大の127人が挑む

2月19日(日)、下田総合庁舎で行われた「わな猟免許試験」に、農業者等が挑みました。

賀茂管内の関係機関からなる「伊豆地域鳥獣害対策連絡会」が8月～9月、60地区を対象に鳥獣被害防止講習会を開催し、捕獲の重要性等を訴え、その後、10月には「わな免許講習会」を開催しました。こうした取組の結果、今回の試験には、例年の11倍の127人が参加し、筆記試験や技能試験に挑みました。

「わな猟免許試験」の結果は3月2日に120人の合格が発表され、今後、地域住民が中心となった鳥獣害対策が各地で推進されます。



～受験者でいっぱいの試験会場～



～ふる一つピネガー～

ニューサマーオレンジ「ふる一つピネガー」発売

2月8日(水)、東伊豆町稲取の「若旦那三人衆」が6次産業化により新商品開発した、ニューサマーオレンジ「ふる一つピネガー」が発売されました。

賀茂農林事務所では、この取組を支援するためアドバイザーを派遣し、商品コンセプトなどへの支援を行うとともに、県農業振興基金協会事業により支援することで、この度の商品化に至りました。

この商品は、機能性の高い酢飲料で、味も工夫され飲みやすく、食前酢や風呂上り、さらに、ちらし寿司、サラダ、焼酎などの幅広い利用方法を提案し、伊豆の観光施設で販売されています。

県産木材を使った「南伊豆町立認定こども園」完成

4月5日に開園予定の南伊豆町立認定こども園が完成し、3月2日に竣工式が行われました。

この「こども園」は、静岡県産の木材を多く使用しており、特に保育室前の下屋の柱や土台には南伊豆町産の桧材を使用しています。また、内装にも県産材が多く使われています。

この「こども園」は、子供達が親しみやすく、楽しく過ごすことができる園舎となることを設計コンセプトとし、南伊豆町の弓ヶ浜海岸をイメージした形状となっています。木の香りがただよう中、子供達がはしゃいだり、くつろぐ姿が今から目に浮かんでくるようです。

賀茂農林事務所では、この南伊豆町の「こども園」と同じような県産材(地域材)を活用した公共施設を建設するよう、市町に働きかけていきます。



～県産木材をふんだんに使った子供園～

東伊豆町大川地区の治山事業

東伊豆町大川地区で行ってきた治山事業、今年度の完了に向け急ピッチで進めています。

当地区では、平成 15 年 7 月の大雨で災害が発生し、平成 17 年度から崩壊地を復旧し荒廃した溪流を整備する治山工事を進めてきました。

今年度、床固工と護岸工を施工していますが、これを最後に全体計画が完了します。



～東伊豆町大川地区～



～河津町大鍋地区～

工事現場は雲の中

河津町大鍋地区では、山腹崩壊を復旧する治山工事が本年 3 月完成に向け行われています。

工事現場は市街地より標高が高く、雨の日には雲にすっぽり覆われてしまいます。

工事はブロック積、木柵、植栽、植生マットを組み合わせて行い、表土の移動を防ぎ緑化させることで崩壊地を緑溢れる山に戻します。

「地籍調査研修会」を開催

地籍調査への管内市町（1市5町）の取組状況は、1市4町が未着手で、1町が休止中と、県内の他地域と比較しても大変遅れています。そこで、賀茂農林事務所では、具体的な地籍調査の進め方を市町に示すとともに、「境界を確定したい」という住民の需要を喚起することを目的に、「地籍調査着手推進モデル調査」（事業量 0.32k m²、概算事業費 15,000 千円、負担：国 100%）を松崎町において今年度から 3 年間の予定で実施しています。

今回、この取組の一環として、管内市町担当者を対象とした「地籍調査事業研修会」を 2 月 2 日に開催しました。この研修会では、地籍調査について本庁の担当者などが講義を行い、講義の後、モデル調査の現地において、測量機器の取扱いや調査の手法についての研修を行いました。



～現地で GPS を使用した研修～



～講義～

東海地震により甚大な津波被害が想定されるため、この研修会をとおして、地籍調査の必要性について再確認するとともに、各市町が着手・再開のためにどのような問題を抱えているのか等、積極的な意見交換も行うことができ有意義な研修となりました。

今後も、県が実施する地籍調査着手推進モデル調査を通じて、賀茂地域の地籍調査を積極的に推進していきます。

「花咲くしずおか賀茂地区地域推進大会」を開催

2月8日(水)、松崎町農村環境改善センターを会場に「花咲くしずおか賀茂地区地域推進大会」を開催しました。

大会では、花咲くしずおか賀茂地区地域推進協議会長の河津町長、地元松崎町長、賀茂農林事務所長から、更なる運動の盛り上がりを期待したいとのあいさつがありました。

また、花いっぱいコンクール特別賞を受賞した下田市三丁目花の会の美しい景観づくりへの取組や管内における花き生産についての紹介が行われました。

続いて、伊豆農業研究センターから、園芸学会賞を受賞した河津桜の普及への取組や、10月から5月まで楽しめる伊豆の桜について講演が行われ、参加者との意見交換が熱心に行われました。



～大会であいさつする賀茂農林事務所長～



～河津町梨本の「大家荘」にて開催～

「南伊豆山葵生産組合総会」の開催

2月17日(金)、賀茂農林事務所が事務局を務める、「南伊豆山葵生産組合」の平成23年度総会が開催されました。

組合は、賀茂管内のわさび生産者で組織され、総会では、議案の可決や、わさび展示会の表彰、感謝状贈呈などが行われました。

総会後の研修会では、伊豆農業研究センターわさび科により、「これからのわさび育種について」の講演が行われ、組合員からも活発な質疑応答が行われました。

石部の棚田で農作業伝承イベントを開催

松崎町の石部棚田で、棚田保全の継承を図るため、2月25日および2月29日から3月2日までの4日間にわたり、農作業技術伝承イベントを開催しました。

2月25日は、日大三島高校(三島市)の1・2年生33名、2月29日から3月2日は、富士常葉大学(富士市)の学生38名および一般応募の1名が参加しました。

参加者は、鍬を使って古いあぜを切り落としたり、木製の杵であぜの穴を埋める方法など、石部地区棚田保全推進委員会のメンバーから指導を受け、「あぜ切り」の農作業技術を習得しました。

石部棚田では、4月28日および29日に、「あぜ塗り」作業が行われる予定(詳細未定)です。



～鍬を使ってあぜを切る日大三島高校生～



～棚田保全推進指導員の指導を受ける富士常葉大学生～